

承認番号 RD7209-008

文書番号 25068283

2025年6月18日

JIS A 5548 タイプIに基づく試験
フレックスマルチ 試験成績書

1. 目的

「フレックスマルチ」の JIS A 5548 タイプIの性能を確認した。

2. 試験項目

JIS A 5557 に基づく接着強さ試験

3. 供試材料

被着材：セラミックタイル / JIS A 5209 BIII施ゆうタイル（陶器質タイル）
40mm 角に切断して使用

下地材：モルタル板（70×70×20mm）

4. 試験方法

4.1 試験体の作製

標準状態（ $23\pm 2^{\circ}\text{C}$ 、 $50\pm 10\%\text{RH}$ ）において、下地材（モルタル板）に接着剤を適量とり、ヘラを用いて5mm程度塗布した後、くし目ごて（幅×高さ×ピッチ：3×3×6mm、Uノッチ）を角度約 60° に立て均一に塗布した。その後、待ち時間を20分とり被着材（BIIIタイル）を下地材の中央に静かに乗せ、その上に1kgのおもりを約30秒間圧縮し、試験体とした（図1）。

なお、下地材のモルタルはあらかじめ $23\pm 2^{\circ}\text{C}$ の水中に7日間浸せきしておき、モルタル表面の浮き水を除去した後、試験に使用した。

4.2 養生条件

標準養生：標準状態雰囲気下で168時間養生

低温養生：低温（ $5\pm 2^{\circ}\text{C}$ ）雰囲気下で840時間養生

アルカリ水中浸せき

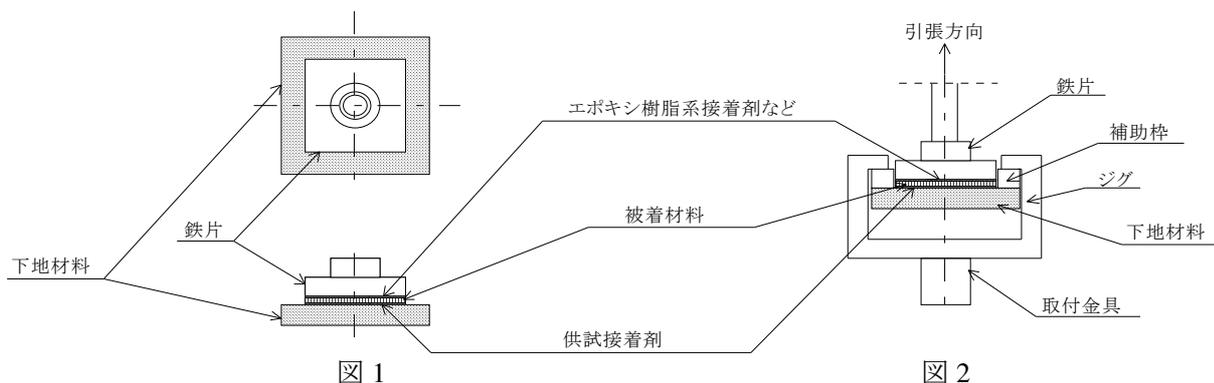
：標準状態で168時間養生した後、水酸化カルシウム飽和溶液（ $23\pm 2^{\circ}\text{C}$ ）中に48時間養生

温水浸せき：低温雰囲気下で168時間養生した後、温水（ $50\pm 2^{\circ}\text{C}$ ）中に24時間養生

熱劣化：標準状態で168時間養生した後、高温乾燥（ $60\pm 2^{\circ}\text{C}$ ）雰囲気下中で672時間養生。処理終了後、試験体を標準状態で24時間静置した後測定

4.3 測定条件

テンシロン万能材料試験機 RTF-2410 により、変位速度 3mm/min にて測定を行った（図2）。



5. 試験結果

表1にJIS A 5548 タイプI 接着強さ試験結果を示す。また、図3に破断の位置と記号を示す。

表1 JIS A 5548 タイプI 接着強さ試験結果

磁器質タイル	接着強さ N/mm ²	凝集破壊率 %
標準養生	1.29	AB12A88
低温養生	0.95	AB10A90
アルカリ水中浸せき	1.19	AB10A90
温水浸せき	0.96	AB10A90
熱劣化	1.57	AB10A90

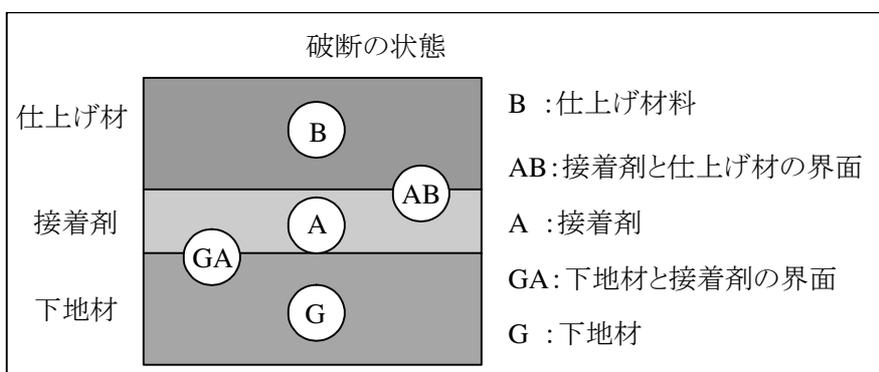


図3 破断の位置と記号

6. 判定基準

接着強度	標準	0.60N/mm ² 以上
	低温硬化	0.30N/mm ² 以上
	アルカリ温水	0.30N/mm ² 以上
	熱劣化	0.30N/mm ² 以上
	凍結融解	0.30N/mm ² 以上

注) 接着強さは数値以下でもその破断位置が下地材料または仕上げ材料であれば合格とする。
また、凝集破壊率には材料破壊を含む

●本試験成績書の記載内容は、当社の試験データを基に作成し、じゅうぶん信頼し得るものと確信しておりますが保証値ではございません。現場施工においては施工箇所の環境・使用材料・施工条件などが異なりますので、確実な施工を行なう為にも施工前に用途・条件などをご自身で十分ご検討下さい。